

根來塗に使用される木材は、箸、皿、酒器など目的に応じて、榿や檜などを使い分けます。伊藤さんの作品は「紀州根來塗初根工房」で見学できます（不在の場合あり）。道の駅 ねごろ歴史の丘内の物販店舗「花笑み館」や工房で購入できます



▼巻頭特集  
技法を継承し、  
新たな挑戦へ

# 根來塗、 美しさの先に

朱塗りの鮮やかさはさることながら、日常で使い込むと現れる黒漆の擦れ。伝統を守り、新たな挑戦へと踏み出す美しき「根來塗」の未来予想図。

右が完成したばかりの器、左が15年経過したもの。朱色が馴染み、薄く黒漆が表出している

## 堅牢で力強く、美しい 県を代表する伝統工芸品

中世、社寺の神器や仏具に始まり、生活用具として使用されてきた朱漆器「根來塗」。岩出市はもちろん、県を代表する伝統工芸品として知られています。

一乗山大伝法院根來寺（以後、根來寺）の開山は長承元（1132）年。南北朝時代から室町時代末期にかけて最盛期を迎え、この頃に多くの朱漆仏具が用いられたと考えられます。

しかし天正13（1585）年、豊臣秀吉による紀州攻めにより、本尊像・大塔・大師堂を残してほとんどが焼失しました。現在の同寺には、中世の漆工遺品はおろか生産活動を裏付ける文献書類は存在せず、境内で根來塗が生産された確証はありません。

「近代に入る以前の真言宗寺院境内では、僧侶は仏事に専念し、生産活動に従事することは戒められたといわれています。境内で漆器生産の工房が確認されないのは、このことにも依

るのかもしれない」と根來寺文化研究所の中川委紀子所長は解説します。

同寺における根來塗生産の実態は不明な点が多いにも関わらず、戦火を逃れた職工たちが技法を各地に伝えたという伝承は全国の漆器生産地に伝わり、根來塗の名は一般に知られていきます。

根來塗の特徴は、強靱な木地に幾重にも塗り重ね、堅牢に仕上げられた漆の美しさ。使い込むと艶が増し、朱塗りが擦れて味わい深い黒漆の塗り肌が現れます。また、非常に丈夫で軽いため使いやすく、長く使える器として重宝されてきました。

「朱の色に心を奪われがちですが、根來塗は形状が素晴らしい。過去の仏器を見ても装飾はありませんが、形そのものが持つ力強さ、そぎ落と

された完成度の高さ的魅力を感じます」と中川所長は話します。

## 地道な作業の積み重ねが 根來塗であることの証明

平成6年、岩出市（当時は岩出町）では、根來塗を地場産業として復興させるために企画した「岩出町伝統伝承事業 根來塗指導員養成講座」を開始しました。翌年、同講座を受講したのが、現在、根來塗師として活躍する伊藤恵さんです。

「講師時代に漆器の素晴らしさに触れたのが原点ですが、根來塗を復興して地場産業にしたいという地元民の思いに感銘を受けたのが大きかったです」と当時を振り返ります。

伊藤さんは根來寺敷地内に「紀州根來塗初根工房」を設立。生活漆器の製作を中心に、作品づくりや仏具の修繕、個展の開催、そして根來寺

の語り部業務など、多岐に渡り活動しています。

根來塗の製作は、堅牢な下地づくりに工程の大部分を費やします。木地は榿、檜などを使い分け、角など弱い部分には麻布を貼り付ける布着せを行います。地の粉などを混ぜた生漆で布着せの部分を覆いながら下地を強化。さらに、砥の粉と混ぜ合わせた漆で錆付けします。

地道な下地づくりを経て、いよいよ塗りの工程へ。黒漆を塗り込み、乾かし、研いで、塗る。これを3回以上繰り返します。一度限りの朱塗りまでにしつかり塗り込んで「漆の塊」にできるかが重要。それが根來塗の堅牢さと美しさにつながります。製作期間は1カ月から3カ月。材料の調達によつては1年以上を必要とする場合もあります。

「根來塗は、普段使いの手擦れさえも美になる。使い手が年月をかけて完成品へと導きます。一代では完成せず、次世代に引き継がれるかもしれない。そこも魅力です」と話します。

## 塗師の活動を通じて 地域活性化に貢献

伊藤さんの信条は、伝統的な技法を守りながら、時代に合わせて挑戦すること。漆の素晴らしさを伝えるべく、根來塗製作だけにとらわれない視点で新たな試みを模索しています。最近では、破損した陶磁器を修

復する金継ぎの教室を開催。高価な金などの金属粉で装飾する代わりに、色漆を使っておしゃれに修復します。また「地元素材を使って根來塗を作る」という目標に向け、漆の産地である岩手県を見学し、漆の木を育てる研究をしています。

「塗師としての活動を軸に、岩出市の魅力を広めたい。ぜひ根來寺に遊びに来てほしい」と話します。

伊藤さんの根來塗にかける情熱に感動し、活動を後押しする中川所長も朱漆への思いを秘めています。

「世界中の朱漆作家の作品を集めて、いつかこの地で朱漆展を開催したい。フレキシブルな発想を持った人が朱漆に挑戦する場を作ること、漆の用途はさらに広がる。朱漆の文化をさらに広めていきたい」と語ります。

日常で使い続けることこそが根來塗の真髄。伝統と進化の過程を間近で見守ることができるとは、地元で暮らす私たちの特権です。ぜひ根來寺に出かけて、本物の素晴らしさに触れてみませんか。

## 根來塗の作業工程



① 木固め 生漆を希釈し、木地に塗り込みます。染み込ませることで木地の溝管を漆で固めて塞ぎます

② 布着せ 木地に麻布を貼ります。接合部には米糊と生漆を混ぜたものを使用します

③ 中塗り 黒漆を刷毛で3回以上塗り重ねます。器を美しく整えるため、しっかりと塗っていきます

④ 上塗り 朱漆を刷毛で塗ります。「一度きりという緊張感がありますが、充実した時間です」と伊藤さんは話します

<profile>  
根來塗師  
伊藤 恵さん  
[今できることから、それ以上にチャレンジすることがモットー。コツコツと作っています]と伊藤さんは話します。2021年は展覧会を開催予定

紀州根來塗初根工房  
きしゅうねごろぬりはつねこうぼう  
[住所] 岩出市根來2168  
[TEL] 090-5048-0011  
[facebook] Facebook.com/Negoronuri

Information  
一般社団法人  
根來塗振興会  
会員募集中  
同会主催のイベント、ワークショップへの先行案内をはじめ、商品・サービスの会員価格での販売、その他優待資格や特典を受けることができます。

年会費 | 3,000円

〈問い合わせ〉  
いなか伝承社  
[住所] 紀の川市粉河17-5  
[TEL] 090-7486-1139  
[メール] inakadss@gmail.com  
根來塗振興会では、漆の栽培に適した候補地を探しています。心当たりのある方は、ぜひご連絡ください。